

「遠野市助産院 ねっと・ゆりかご」の開設の経緯

1 助産院の開設

遠野市では、市内にお産を取り扱う医療機関がないことによる妊婦やその家族が抱えるお産の不安の解消と経済的負担の軽減を図り、安心・安全な妊産婦医療の環境整備に向けた第1ステップとして、平成19年12月1日に公設公営の助産所「遠野市助産院ねっと・ゆりかご(※)」を遠野健康福祉の里内に開設しました。



助産院開設式

2 医療機関とのネットワークの構築

開設に至るまでの経過は、同年9月26日、盛岡赤十字病院との間で嘱託医療機関契約を締結し、さらに岩手県内の8つの医療機関（平成26年4月現在では13医療機関に拡大しました。）の協力をいただき、助産院とのネットワークを構築しました。



遠野健康福祉の里

3 遠野型助産院ネットワーク構想の具現化

助産院の開設は、遠野型助産院ネットワーク構想の具現化に向けた実質的な活動のスタートとなるものであり、妊婦主治医の指示による妊婦健診をはじめ、きめ細かな健康相談や指導業務などを中心としたサポートを行い、さらには市民協働による子育て支援や保育支援などの妊産婦サポートを創出しながら、医療機関とネットワーク化された妊産婦支援体制のもとで、妊婦が安心してお産に集中できる環境づくりに取り組んでいます。



妊婦健診ブース

4 県産婦人科医会からの支援

厳しい妊産婦医療の現状を直視し、ただ嘆いているのではなく、市の身の丈で、できることから市民の協力と理解により取り組んできました。中でも県産婦人科医会の小林高会長の支援が大きな推進力となり、関係医療機関のご指導を受けながら助産院を開設することができました。

※ **愛称の選定** 産院が広く市民から愛され親しまれるよう愛称を市民公募したところ、86人から応募がありました。愛称を選定するにあたり、先に遠野市市民医療環境整備推進委員会により候補5点を選考いただき、それを受けて最終的に「ゆりかご」に決定いたしました。市では、この「ゆりかご」の名称に、遠野型助産院ネットワーク構想の具現化を推進していきたいという思いを込めて、名称に、ネットワークの「ネット」を引用し、より親しまれるようひらがな表記として、最終的な愛称名を「ねっと・ゆりかご」としました。

「遠野市助産院ねっと・ゆりかご」の連絡先

お気軽にご連絡ください。

TEL&FAX

0198-62-1103

いいおさん

「遠野市助産院 ネット・ゆりかご」の開設にあたってのあいさつ

(平成19年12月)

遠野市長 本田 敏秋

遠野市は、遠野型助産院ネットワーク構想による「安産の里」づくりを掲げ、妊婦遠隔健診をはじめ妊産婦の環境改善に身の丈で取り組んできました。このたび遠野市助産院の開設にあたり、県産婦人科医会長の小林先生からのお力添え、そして嘱託医療機関を受諾賜りました盛岡赤十字病院、更には他の関係医療機関のご理解とご協力のもと、9つの医療機関とのネットワークにより着実な一歩を踏み出すことができましたことに、あらためて感謝いたします。今後とも、関係各位のご指導ご鞭撻を賜りながら、地域の妊産婦医療の環境改善に鋭意努力してまいりますので、ご愛顧の程よろしくお願いいたします。

盛岡赤十字病院 沼 里 進 院長

地域医療確保のため、市の提案により嘱託医療機関として同意した。地域の産科医療に一筋の光が見えてきたことは誠に意義深い。院内で多忙な松田副院長・藤原部長らスタッフが親身に受け止め快く引き受けてくれた。病院も頑張っていくので協力をお願いしたい。

岩手県産婦人科医会 小林 高 会長

嘱託医療機関契約は画期的なことである。市のファイトに是非応援していきたい。モバイル遠隔健診の取り組みによる情報ネットワークが構築されていくと期待している。この取り組みがうまくいけば一つのモデルとなり、県内の産婦人科医師がいない過疎の地域へも希望がもてるようになる。今後発展していくことを心から願っている。

「遠野市助産院 ネット・ゆりかご」の連絡先

お気軽にご連絡ください。

TEL&FAX

0198-62-1103

いいおさん